

読者文壇

投稿歓迎

行く行かぬ

決めかねている寒い朝
アッコがきたる銭を思いぬ

朝まだき隣り仕事に

行くらしき音に目覚めて
今日の足袋なく

春雨や恨みますまい

ドヤの窓

三四三太郎(36キ)

(三柳)

ロッキード おれゆりてだんご汁

角栄よ おれ売血を紳士かな

相談所 菓子ばかり食う知らん顔

政治力 ありもしないに 実力者

タレント議員 政治より名前と飲ま食ひ

落選で はじめで気がつく物価高

赤坂の 政治のアホレ 二日酔い

下下室

「明日は死ぬ人の標に」

中嶋 博

明日は死ぬ人のように

私はあせる……

残さぬ時間か

いくらも無いと気付くとき

人は何を考えるのだろうか？

生きて

社会にいくらも昇進できず

消えて行くというのは

さびしいと思いませんか？

五十の声を聞いて

私に残ったものは

悔恨だらけ……

でも我の中に せめて

小さな花が咲くことを

私は ひそやかに祈るのです。

戦後の繁栄

千円の機に

散って行く

物乞いめ 不特定多数……

あゝ 神さま

彼らに恵みを與えてやって下さい、

私達の兄であり

父親たちであつたお母さん

哀れな年い、に アニコの魂の元に

せめて 守らねた死を 與えてやって下さい、

か弱い私には 彼らの魂をしずめる

方法を知りません。

もし死後の世界があるものだとしたら

どうか彼等を やすらかに眠らせて

やってあげて下さい。

一九七七年二月

春の冬は厳しく

やして 私は依然として無力なのです。

(一) ちよいとや二行く お兄さん

新聞片手に 何処へ行く

勝負の世界は きびしいものよ

さんざん俺らも泣かされた

耳にはさんだ鉛筆に

俺の眼もが燃えてゐる

(二) 昨日にぎった 千金も

いっしか消えた 最終レース

捨てた直奔を捨て、こ見れば

やれど地見屋と 人は言う

ギャンブル人生 きびしくて

今じゃ 猪目の 三度笠

(一) 夢多き 君の笑顔 万づかしく

山り向けば ぼるか 夢方に

今日 涙あり

(二) 清しの 都の空の 星くずに

追われ 去り来し 故郷を想う

何ひとつ 失うもの 巨持ため身を

病の床に 抱かれふし

なみそを およる

あわれみかしく